

橋桁端部における劣化対策

要旨

本工事は、鉄道在来線の上空を交差する道路橋において、老朽化により劣化した上部工および下部工を補修するものである。上部工形式は橋長377mの単純鋼合成鈹桁橋で、1976年12月に建設され、供用後49年が経過している。施工に先立ち現地調査を実施した結果、橋桁端部におけるウェブ面、下フランジおよびガセットプレートの腐食が著しく進行していることが確認された。さらに、当初想定箇所以外にも腐食による断面欠損が多数認められた。本稿では、腐食が顕著であった橋桁端部に着目し、その劣化原因を整理したうえで、水の集中供給を抑制する対策について報告する。

